

特集

院長就任のご挨拶

各科日より

リハビリテーション科紹介

リハビリテーション科

4 P

健診センター透視装置が新しくなりました！

放射線技術科

5 P

聞き書き

.....

6 P

新任医師紹介

.....

7 P

病院のニューフェイス

.....

8 P

病院前をきれいに除草

.....

8 P

「りんどうの会」グリーンボランティア活動

.....

8 P

市立砺波総合病院憲章

わたくしたちは、市立砺波総合病院の職員であることを誇りとし、愛と奉仕の精神のもとに、病気で悩める人々を癒すことに互いの心を結集し、この憲章を定めます。

市立砺波総合病院は

- 1 患者さんの権利を尊重します
- 1 医療の安全を追求し 信頼される医療を提供します
- 1 医療・福祉・介護・保健分野との連携に努め 地域医療の推進に努めます
- 1 職員が働く喜びと誇りの持てる職場をめざします
- 1 健全な病院経営に努めます

理 念

地域に開かれ
地域住民に親しまれ
信頼される病院



市立砺波総合病院
Tonami General Hospital

〒939-1395 富山県砺波市新富町1番61号
TEL 0763-32-3320(代表) FAX 0763-33-1487(総務課)
E-mail tgh-somu@city.tonami.toyama.jp
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>



院長就任のご挨拶

「大切にしていきたい5つの「C」」

河合 博志

みなさま、こんにちは。本

そして働き方改革などという

年4月1日に院長を拝命した
河合博志です。平成24年から

言葉もなく、バブルの華やかな
雰囲気も知らずにひたすら

7年間当院を率いて来られま
した伊東正太郎前院長から引

病院にこもっていたことを覚
えています。平成の31年間は

き継ぎ、9代目の院長となり、
たいへん身の引き締まる思いを

内科専門医、特に消化器内科・
肝臓病専門医としてプロ

しています。私は砺波市で生
まれ育ち、昭和62年（1987

フエッショナルとなるために
過ごしてきたように思いま

年）金沢大学医学部を卒業し
て内科医師となって以来、今

す。平成14年（2002年）40
歳で、長く勤めた金沢大学附

年で33年目となります。研修
医2年目の冬に元号が昭和か

属病院から前任地の公立松任
石川中央病院に異動しまし

ら平成へと変わり、この年は
ちょうどバブル景気と言われ

た。その後、縁あって8年前
の平成23年（2011年）に

始めた年ですが、専門を消化
器内科、中でも肝臓病を選ん

当院に赴任しましたので、ほ
ぼ人生の半分近くを砺波市で

だ直後のことでした。当時は
今でいう医療崩壊、医療安全、

過ごしていることになりま

す。今後は院長として、これ
まで病院を育て支えてくだ
さった先人に恥じない病院を
目指すとともに、砺波医療
圏のそして富山県の医療を支
える一つの柱として、地域の
皆さまに安心、安全な医療を
提供してまいりたいと考えて
おります。

連携拠点病院、肝疾患診療連
携拠点病院、臨床研修病院等
の指定を受け政策医療の面か
らも職員一丸となって、地域
の医療を守っています。しか
しながら、現在医療を取り巻
く環境の変化は大きく、医療
大変革時代と言われています。
医療制度改革により、公的病
院を取り巻く環境は大変厳し
くなっています。このよう
な時代だからこそ患者さんに
寄り添い患者さんを守る医療
を大切にしてまいりたいと考
えております。

市立砺波総合病院は昭和23
年の開設以来、地域の皆さま
方や多くの医療機関の方々の
ご支援により砺波医療圏約13
万人の中核病院に育てていた
だきました。現在は結核病床、
感染病床を含め514床、医師約

今回の院長就任にあたって
は、信頼をベースにした職場
環境を作っていくことで、持続
可能な効率的で品質の高い医
療を地域に提供できる病院を
次世代に継承していくことが
私自身の第一の理念であるこ
とを職員に伝えました。伝え
たメッセージは5つです。その
うち3つだけを紹介しますと、

100人、看護師433人、医療技術
員143人、その他の職員を含め
総職員800人余の規模となっ
ています。地域の中核病院とし
て、地域の皆さまの命を守る
医療を第一に、災害拠点病院、
へき地医療拠点病院、地域救
命センター、地域周産期母子
医療センター、地域がん診療

医療センター、地域がん診療

1番目は私自身が「職員の働く喜びを大切にすることで地域医療を守る」と考えていること。

2番目は病院のように専門的技術を持つ専門家集団では、トップダウンは限定的に、一人ひとりがリーダー意識を持ってポトムアップ、ミドルアップダウンの循環型の体制で進んでいってほしいこと。

3番目は、無理せず、楽せず、相手に優しく、自分にも優しくしてほしいこと。

これは安定した意識的な行動が重要だからです。お互いに優しい、笑顔のある関係のほうが生産性が高いことはいくつもの調査から明らかになっています。行動経済学者でノーベル経済学賞受賞のダニエル・カーネマンの著書「ファストアンドスロー」を読むと、たとえ軍隊のような過

酷な組織であっても、ピリピリした厳しい隊長よりも思いやりや温かみのある隊長に率いられた部隊のほうが結局成績が良いそうです。自分の行動の意味を立ち止まって考え、自分と人の気持ちに優しく、意識的行動を安定して続けることが信頼につながるのではないのでしょうか。

昨年ノーベル賞を受賞された本庶佑先生は研究者には6つの「C」、すなわち、

- 好奇心 (Curiosity)
 - 勇氣 (Courage)
 - 挑戦 (Challenge)
 - 確信 (Confidence)
 - 集中 (Concentration)
 - 継続 (Continuation)
- が重要と言われています。そこで、本庶先生の6つの「C」にちなんで、市立砺波総合病院で私の理念をあらわす「C」を選んでみました。

まず第一は信頼 (Credit)。安心とは何も起きない明日への淡い期待、一方、信頼はなにかが起ころつても大丈夫という自信と読んだことがあります。20世紀のイギリスの哲学者カール・ポパーにこんな言葉があります。「物事は不確実で人間は必ず間違ふ。だからその間違いを認めてそれを常に修正していくことが必要なんだ。」不確実で先の見えない時代であるからこそ、信頼を第一にしていきたいところです。そして、自分の考えをしつかりと意識 (Consciousness) して、自分の言葉や行動の結果を熟考 (Contemplation) する。そして、仲間や患者さんに寄り添う気持ち (Compassion) をいつも忘れず一貫性 (Consistency) を持つて行動すること。ちょっと、こじつけのようになりましたが、この5つの「C」を医療者としてだけではなく一人の人間として

しても大切にしていきたいと思っています。

最後にもう一つカール・ポパーの言葉、「人生の意味とは見つけたり発見できるようなどこかに隠されたものではない。それは自分自身で自分の人生に意味を与えなくちゃならない。」院長に就任して1か月で、元号が平成から令和へと変わりました。昭和に生まれ育ち、平成に医師として成長した私は、院長としての令和の時からどのような意味を与えることができるでしょうか。今後も病院理念である「地域に開かれ、地域住民に親しまれ、信頼される病院」の実現に向けて努めてまいりますので、引き続き地域住民の皆さま方や、地域の医療機関の方々のさらなるご指導とご支援をお願い申し上げます。

リハビリテーション科紹介

医師が考えるリハビリテーションとは

リハビリテーション科の医師は、障がい^①を診て運動療法や装具で治療する専門家です。リハビリテーション医学のキーワードは「機能を回復する」「障害を克服する」「活動をはぐくむ」の3つです。

「リハビリテーションをする」と聞いて思いつくのが「機能を回復する」だと思います。病気やけがで低下した体や脳の機能を回復させるための検査や治療を行います。「障害を克服する」とは、麻痺などの身体の障がい^②が残った場合にも活動の障害にならないように工夫することです。目が悪い人が眼鏡を使うように、歩きにくくなった人に杖や車いすなどを使い、移動する練習をします。「活動をはぐくむ」は、今後の人生を生きていく活動を支え活性化をはかります。



リハビリテーション科 部長 中波 暁

リハビリテーションを行う時に大切な考え方

リハビリテーションを行うのは病気になるたご本人だという考えが大切です。急性期には必要な時にリハビリテーション療法士がサポートしますが、「常に誰かにしてもらう」わけではありません。

主体的に取り組んでいただきたいです。入院中は体調に合わせて看護師や家族と一緒に取り組むのが良い場合もあります。

リハビリテーションの目的と目標を考えると



ことも大切です。リハビリテーションの最終的な目的は「本人がこれからの人生で幸福感・満足感を得るためにしたい事ができるように」です。何がしたいか、したくないのかは人それぞれなので、ご本人と考えましょう。目的を達成するために「どのような動作がどの程度できたら良いのか」「この動作に必要な動きは何か」「動作ができないときに、代わりに道具を使うか」などを療法士は考えています。目的と目標をご本人と周りの人たちが共有してリハビリテーションに取り組めると良いですね。

入院リハビリテーション

リハビリテーションでは病気が発

症してから期間を急性期・回復期・生活期の3つに分け、内容や取り組み方を変えていきます。当院は主に急性期の治療を行う病院なので、リハビリテーションも急性期を中心にを行います。

急性期とは病気やけがの治療に合わせてリハビリテーションを行う時期です。治療が優先ですが、可能であれば起きて過ごす、手術の次の日も1日1回は立って歩く等を始めます。これは元通りの生活に戻るための第一歩です。過去の研究では、健康な若い人が20日間ベッド上で寝たまま過すと、1~2日の内に心臓や神経の動きのほか、血液の流れが変化し始め、最後は最大酸素摂取量が28%低下したそうです。それだけ疲れやすくなったということです。

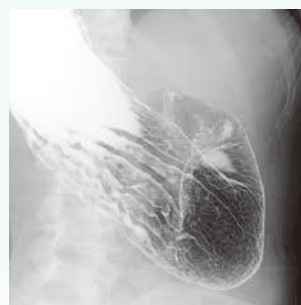
外来リハビリテーション

リハビリテーション科外来では、通院での急性期リハビリテーションを継続しています。また、生活期特有の障害がある方に治療や運動療法指導、装具の処方などを行っています。介護保険を利用したリハビリテーションをお勧めする場合もあります。これから運動をしたいけれど、身体の障がいがありどのように取り組んだら良いかわからない方はリハビリテーション科外来をご利用ください。



健診センター透視装置が新しくなりました！

平成31年3月25日から健診センター透視装置が新しくなりました。以前使用していた装置と比べて、見かけ上の変化はあまり感じられませんが、中身は劇的に変化しており、科学技術の進歩を感じさせます。その一端をご紹介します。



① エックス線発生装置の進歩

人体にとって許容の範囲内のお話ですが、エックス線検査では、放射線被ばくは避けられません。新しくなった装置では、「電流を流したり止めたりすること（パルスモード）」でパルス状（※）にエックス線を発生させることができ、従来の連続状のものに比べて、大幅に放射線量を低減できるようになりました。

③ 体幹部を一度でカバーする大きな検出器

健診で使用する装置のなかでは他メーカーには無い42×42cmの大型エックス線検出器を搭載しており体格の大きな方でも問題なく撮影できます。また微細な画像も大きく見やすく拡大して撮影することができると高倍率ズーム機能を有しています。

② デジタルエックス線検出器

エックス線検出器が以前のアナログ検出器からFPD（フラットパネルディテクタ）と呼ばれるデジタル検出器になったことで、少ない線量のエックス線で充分な画像が得られるようになりました。また、これまで以上の微細な胃粘膜の描出も可能になっています。検出器の性能として139μmの分解能（メーカー公称値）を有しています。

④ 落下防止自動肩当て装置

胃エックス線検査では撮影の手上、寝台の頭が大きく下がることがあります（頭低位）。その結果検査台から落下という事故が他施設で発生しました。このことから胃エックス線検査では落下防止のために肩当て装置を用いることを強く推奨されています。

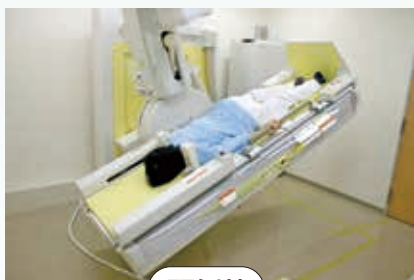
今回導入された透視装置では自動で肩当て装置が作動し、強く体重が掛かっても落下しない安全装置が装備されました。このおかげで安全かつ有効な体位で撮影できるようになりました。

新装置外観



健診センターの新しい胃エックス線検査装置についてご紹介しました。胃エックス線検査には多少の苦痛が伴います。しかし皆様のご協力により精度の高い健診を提供することができそうです。ご理解とご協力をお願いします。

※パルス状：信号が脈打つこと



頭低位



肩当て作動中

聞き書き

看護師 安東 則子

また、全国では「聞き書き甲子園」というものもあり、100人の高校生が、海や森の名人を訪ね、生き方や術で、本を作るといった企画も実施され、盛り上がりを見せています。

当院では聞き書きを希望された患者さんのところに、病院ボランティアや担当看護師が出向き、お話を聞きます。今まで、30代から90代の様々な患者さんの聞き書きを行いました。一冊いっさつが、患者さんの顔や、その表情まで思い起こされるくらい、深く心に残っています。

患者さんからいただいた意見・感想をご紹介します

辛い入院生活だった。でも聞いてもらって出来た本を、子供が成長したときに見せたい、読んでもらいたいと思った。その辛い自分を知らないあなたに聞いてもらったら、何か素直に聞いてもらえた。退院してふと考えました、辛いことを知りすぎている人だと自分も遠慮してこままでのことは話せなかったと思う。(30代女性)

孫が結婚するときの手土産にします、それまではこっそり隠しておきます。本を読んでもくれた友人からは、「ずっと近くにいたからあなたの苦勞をわかっていたつもりだったけど、こんなに一人でも苦勞していたとは思いませんでした。本にしてもらって良かったね。(70代女性)

息子に面と向かって言えないことを聞いてもらえて良かった。まして本にしてもらいな嬉しい。再入院のときに家のテーブルに置いていこうと考えているんだ。(70代男性)



病棟看護師の意見・感想

日ごろ看ている患者さんとは違う、気さくな一面を感じた。またご家族が、こんなに苦勞してこられたとは思いませんでした。

聞き書きをしてもらっているときは、素敵な笑顔です。お話をしているときは痛みさえ忘れるのかもしれない。

回想法(※)と似た面もあり、認知症ケアにも聞き書きは役にたつかと考えています。

患者さんから温かいメッセージをいただき、大変やりがいを感じています。また、病棟看護師の意見にあるようにこの取り組みの手ごたえも実感しているところです。

私たち看護師は病気を中心に患者さんを捉えがちですが、患者さんがどんなことを大切にされているのか、またどのような人生を送ってきたかなどのお話をこの取り組みを通して伺うことで、患者さんにより身近な看護につながると考えています。全国自治体病院学会でもこの取り組みを発表しました。同じ医療職から、「どんな手順でされているのか」「慌しい大きな病院の中では、患者さんの背景が見えないうちに退院されることもあり、この手法は興味が湧く内容でした」などの意見をいただきました。さまざまな場所で聞き書きを発表する機会もいただき、こうして丸7年経過しました。

現在、聞き書きを行うボランティアスタッフはまだ少なく、不定期ですが、病院ボランティアが中心となって、聞き書きの勉強会を行っています。

「その方の人生の1ページ」を一緒に作って、患者さんやスタッフと一緒に振り返る時間を共有しませんか。聞き書きに興味がありましたら、お気軽にお声がけください。

※回想法…認知症の治療のひとつで、過去の体験を自ら話すことで脳の活性化を促すといわれています



新任医師紹介



腎臓内科

松野 貴弘

砺波地域の皆様のお役に立てるように頑張りますので、よろしくお祈りいたします。



循環器内科

鷹取 治

砺波地域の医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。微力ながらよろしくお祈り申し上げます。

消化器内科

太田 亮介

砺波医療圏の皆様のお役に立てるように頑張りますのでよろしくお祈りいたします。

早川 希

砺波市の医療に貢献できるよう、安心と信頼を得られる医療を目指して頑張りますので、よろしくお祈りいたします。

形成外科

浅田 佳奈

形成外科って何を診てるの？そう思われる方も多いと思います。きずや先天異常、腫瘍切除後の再建など幅広く診察しています。市民の皆様にお祈りされる形成外科医となるよう努力いたします。よろしくお祈りいたします。



小児科

竹村 悠太

砺波の皆さんの力になれるよう精一杯努めてまいろうと思います。よろしくお祈りいたします。

糖尿病・内分泌内科

加藤 健一郎

糖尿病・内分泌領域を中心に砺波地域の医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしくお祈りいたします。

耳鼻咽喉科

溝上 晴恵

耳鼻科疾患は五感に関係します。何か違和感があれば気軽に相談ください。



眼科

岡山 允彦

母の故郷であり、私が生まれた地である砺波です。砺波の皆様の少しでもお役に立てようがんばります。よろしくお祈りいたします。

産婦人科

高森 さやか

地域の皆様のお役に立てるように頑張ります。よろしくお祈りいたします。

脳神経外科

林 智秀

丁寧な診察を心がけ、砺波地域の医療に貢献できるようにがんばります。



集中治療・災害医療部

谷 昌純

「診療・座学・早起き・ダイエット」この4つを今年度は頑張りたいです。ご指導よろしくお祈りいたします。

中垣 成子

砺波医療圏に少しでも貢献できるよう、尽力いたします。どうぞよろしくお祈りいたします。

放射線科

田中 理紗子

皆様にお会いする機会は少ないですが、陰から支えられるよう頑張ります。

麻酔科

古木 勲

安心して、手術を受けられるよう、力を尽くします。





病院前をきれいに除草

「りんどうの会」

グリーンボランティア活動

6月6日、砺波総合病院前の山王川沿いで、病院ボランティア「りんどうの会」の会員など約30名がグリーンボランティア活動を行いました。

この取り組みは、平成19年から始まり今年で13回目、会員らは、患者やその家族などが気持ちよく来院できるよう額に汗しながら除草に励みました。



『患者さんの権利を守るために』

1. 当院では、病気を克服しようとしておられる患者さんの人権を尊重し、その経済的・社会的地位、年齢、性別、疾病の種類などにかかわらず平等で最良の医療を提供します。
2. 当院では、患者さんと一緒に病気を克服するために、患者さんが既に実施された診療の内容と、これから行われようとする検査、及び治療の目的、方法、内容、危険性、治療の見直し及び、これに代わる他の治療法について十分説明し、さらに患者さんの治療に対する希望もお聞きし、相互の理解を得た上で、医療を行います。
3. 当院では、患者さんの希望があれば原則として、患者さん本人にカルテを開示いたします。また、他の医療機関にかかり意見を求めるためや、他の医療機関に移られるときには全ての情報をお渡します。
4. 当院では、患者さんのプライバシーを守るために、患者さんの承諾なく当院の医療従事者以外の第三者に患者さんの情報を開示いたしません。
5. 患者さんの権利には義務と責任が伴います。

以上を守り診療することを約束いたします。

診療案内

外来診療受付時間

□ 新患 午前8時15分から午前11時まで

□ 再診 午前8時00分から午前11時まで

※診療科・曜日によって異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

休診日

土・日・休日および年末年始